

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

収奪的国家が生んだ「貧しい日本人」 河野龍太郎（BNPパリバ証券経済調査本部長チーフエコノミスト）

- かねて日本の長期停滞の元凶は、儲かってもため込み、賃上げも国内投資も消極的な大企業にあると論じてきました。生産性改善の果実が正社員にも非正規雇用にも分配されないから、停滞が続くのです。「収奪的な社会制度では一国経済は衰退する」（2024年にノーベル経済学賞を受賞したダロン・A・アセモグルとジェームズ・A・ロビンソン）。気付かないうちに、日本は収奪的な社会に向かっています。
- アベノミクスが始まった13年度に300兆円だった利益剰余金は、23年度に600兆円まで倍増しました。一方、人件費の増加はごくわずかです。ため込んだ利益を賃上げや国内投資に向かわず、大企業は海外投資を加速させています。その結果、企業利益は伸びましたが、それ以上に飛躍的に伸びたのが配当金です。配当や株高を享受するのは、外国人投資家ばかりです。
- 人件費抑制のために、産業界が非正規雇用の仕組みを編み出したこと自体が、収奪的なイノベーションだといえます。成長戦略の重要性は否定しませんが、日本経済の健全な発展には公平な分配が不可欠です。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2025年3月29日号)

人事労務について

経営にもっとお年寄りの知見を

- オリックスの宮内義彦シニア・チェアマンが言われている「今の高齢社会には年齢を重ねた人を避けるような風潮がある」という意見には共感できる。近年、日本のスタートアップなどでは、高齢の方が経営に携わるケースが極端に少ない。なるべく、古い考え方や習慣を取り除くことが重要だと考える人が多いのかもしれない。しかし、年齢を重ねるごとに知見が深まり、熟練の経営者にしか見えない視点は確かにある。もっと業績をよくしたい、正しい経営をしたいと考えるのなら、社外取締役などで、確かな経験のある先輩を招き、知見をいただくことが大切だ。
- 「ジャパン・アズ・ナンバーワン」をもう一度取り戻すためには、経営者のリスク覚悟のチャレンジが求められる。宮内義彦氏は「経済面では新しいことに挑戦をしない限り、何も生まれません」と強調している。熟練の経営者の確かな知見、そしてリスクを恐れないチャレンジが今の経営者には求められるはずだ。

(参考:「日経ビジネス」2025年3月17日号)

ワンポイント経営アドバイス

多様性を生かすには日常的な場が必要

荻谷剛彦（英オックスフォード大学名誉教授）

- 最近のはやり言葉に、「DE&I」がある。日本語では多様性、公平性、包摂性となる。ここでは多様性について考えてみよう。日本の大学でも教職員や学生の多様化を図ろうとする動きが顕著だ。その理由づけに、異なる背景を持つ人々が協働することで豊かな視点やアイデアが生まれ、イノベーションが促進される、という見方がある。もっともな理由である。
- しかし、それらが実効性を持つには、多様な背景を持った人々の間に十分なコミュニケーションが成立していなければならない。しかし多様性の効果が発揮されるのは、実はインフォーマルな場で行われる、それこそ自由闊達なコミュニケーションを通じてである。例えば、偶然座った人たちとの闊達な会話が豊かな視点やアイデアを与えてくれる機会となる。

(参考:「週刊東洋経済」2025年3月22日号)

古典に学ぶ

「加持祈祷」の「加持」とは何か

- 「加持祈祷（かじきとう）」という言葉がある。空海は、その加持の本質を、次のように記しています。加持とは「天地の力や仏の力に、人々の信じる心が感応して起こるもの」である、と。
- 彼は、加持を「月と水面」になぞらえて、月光が「加」であり、その光を映す水面が「持」であると説きました。つまり加持とは、仏の力（月光）が、私たちの心（水面）に映し出されて成立する状態だということです。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)